特集 協同学習のすすめ

1年生での協同学習
― 音読と文法学習をグループ活動で ―

沖浜真治
（東京大学教育学部附属中等教育学校）

1. 久しぶりの１年生は…

昨年度は本当に久しぶりの１年生の担当となりました。小学校で英語活動が普及している昨今，おそらく昔の１年生とは違ってかなり英語は知っているのだろうと頭ではわかっていたつもりでしたが，最初の授業で一人ひとりと握手をしながらあいさつすると，教えなくてもほぼ全員が “Hello, my name is ～. Nice to meet you too.” と答えたのにはびっくりさせられました。

しかしそれは決まり文句を丸覚えで知っているだけで，当然のことながら必ずしも文を作るルールを理解しているわけではないことが，やがてわかってきました。また音読の声量に今一つ力強さがないことから，英語への新鮮なワクワク感がないようだということも感じました。そこで，こうした点を少しでも改善できるようにと取り組んでみたグループ活動を２例ご紹介します。

2. グループ活動による音読

NEW CROWN（以下 *NC*）*BOOK 1* の WORD CORNER 1 では数字を学びますが，これを素材にグループ活動による音読に取り組みました。一通り読み方を覚えさせたあと，よく行われているようにグループ内で 1～100 までを順番にできるだけ速く言わせる練習をしました。そして適当な頃合いを見計らってタイムトライアルを行いました。英語がとても苦手な生徒がいるグループがやる気をなくさないように，前回よりどれだけ速くなったかで競わせたクラスもありました。でもこれだけでは味気ないのと，次の課で複数形を習いますから，*One, one, one* という詩に登場してもらうことにしました。

One, one, one
Two, two, two
Three, three, three
Four, four, four
Five, five, five
Six, six, six
Seven, seven, seven
Eight, eight, eight
Nine, nine, nine
Ten, ten, ten

A cat in the sun
Lions in the zoo
Birds in the tree
Rats on the floor
Bees near the hive
Ants under bricks
Angels in Heaven
Dogs at the gate
Snails on the vine
Pigs in a pen

まずグループで辞書を引きながら意味を確認させ，グループ内で分担して１枚の紙に担当箇所を絵で描き表わさせました。この絵にそれぞれの個性が表れて楽しいものとなります。ある生徒がライオンを１匹しか描かないのをほかの生徒が気づいてあわてて描き足したりする姿が見られるのもグループ活動ならではです。時間がなければ最後は宿題にしてもよいでしょう。描き終えたあと，それを大きな紙に貼って１枚の絵として完成させました。

絵が出来上がったらグループで英文を見ながら音読練習，次に描いた絵だけを見ながらコーラスでの暗唱練習，そして最後はグループ発表テストとしました。はじから順番ではなく，最初は立候補制として，失敗しても２回まではその日の授業中での再トライ可としました。上手なグループの発表に拍手が起きたり，自信があったのに途中で詰まって不合格となって悔しがっているグループの姿に笑いあったりと楽しいひとときです。授業中どうしても合格できなかったグループも放課後のテストで合格となりました。この時期，教科書の歌を歌い始めたこともあってか，少しずつ音読に力強さが出てくるよう

になりました。

同じ *NC BOOK 1* の WORD CORNER 3 は曜日を扱うのですが，Mother Goose から *Solomon Grundy* を紹介しました。テストはしませんでしたが，やはりグループで音読練習を楽しみました。もちろん教科書本文でも 1 レッスンが終わったあとなどにグループで音読練習（コーラス・リーディングも含めて）をするのですが，やや機械的な練習になりがちです。その点こうした詩は，内容もおもしろいので生徒たちも気持ちが入りますし，リズミカルで韻を踏んでおり，声をそろえやすく，グループ音読に適していると思います。

3. 英文の語順確認

1 年生も最後の方になると，基本的な SV, SVO，SVC の英文を一通り習うことになり，修飾語（句）もいろいろと出てくるようになります。それを文の中でどのように配置すればよいのか正確にはわかっていない生徒が多いようです。中には丸暗記すればよいと考えている生徒もいるようですが，きちんと理屈がわかって自分で英文を作れるようにしていくことが 2 年生へのつなぎの学習として大切です。

そこで，一種の文法学習として，教科書の英文の分析にグループ学習の中で取り組ませました。具体的には下のようなワークシートを作って，教科書の英文（*NC BOOK 1* Lesson 8）の意味をその枠に入れさせ，日本語との違いに気づかせながら英文の基本的な語順を確認させていきました。ご覧になってわかるように，このワークシートでは目的語と補語について一応簡単に区別はしてありますが，ここでのねらいはそうした区別ではなく，（肯定文では）主語，動詞という語順が必ず守られていること，そしてそのあとには動詞の意味に応じて目的語や補語のようなものがくるか，中にはそれらはいらないものもあるということを理解させることです。

やってみて生徒が一番迷ったのは “Shiretoko in Hokkaido is one of them.” の in Hokkaido の位置づけで，多くの生徒が最後の「どこで」の枠の中に入れていました。「じゃあ，『知床はその 1 つでした，北海道で』でいいの？」ともう一度グループに戻して考えさせました。このことでかえって修飾語（句）も含めた文構造の理解が深まったようです。

4. 英文の語順確認

グループ活動というとき，当然ながらグループで行うことに必然性があるような活動であることが望ましいと思います。一方，それを考え出すことの難しさも痛感しています。しかし，グループの中で生徒たちが協力して取り組むことで，学ぶ楽しさを感じたり，友達の考えを聞く中でより深く学べるということが起こります。タスクそのものに目新しさはなくとも，活動の形態に変化をつけることで，生徒たちの学習が促進されることがありますので，グループ活動に取り組む価値はあると思います。

Lesson 9			Class　　No.　　Name			
	誰が／何が	何する である／いる	何を／誰を 何／誰	どのように	どこで	いつ
1	ナショナルトラストは	保護しています	湖水地方を			
2	トラストは	始まりました				100 年以上前に
3	北海道の知床は	です	その一つ			

分析した英文は下記のとおり。教科書本文の各所からの抜粋だが，実際の授業では、全文を対象にしている。
1 The National Trurst protect the Lake District.
2 The Trust started over 100 years ago.
3 Shiretoko in Hokkaido is one of them.